

産業廃棄物処理計画書

令和 4年 6 月 17 日

静岡県知事 川勝 平太 殿

提出者

住所 静岡県磐田市岩井2500番地

氏名 スズキ株式会社 磐田工場
工場長 野原 勉

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 0538 (32) 8300

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	スズキ株式会社 磐田工場
事業場の所在地	静岡県磐田市岩井2500番地
計画期間	令和 4 年4月1日～令和 5 年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	製造業(輸送用機械器具製造業)
② 事業の規模	製造品出荷額 195,700 百万円(令和3年度)
③ 従業員数	1,408人(令和 3 年 3 月末現在)
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙のとおり

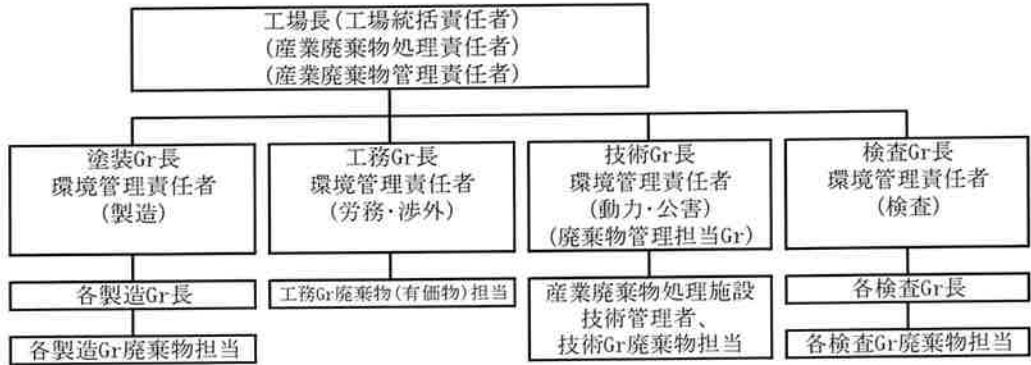
(日本工業規格 A列4番)



産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

【工場環境管理委員会組織】



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和3年度）実績】					
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃プラスチック類	ガラス・コンクリート・陶磁器くず	木くず
	排出量	4,714 t	4 t	120 t	5 t	21 t
	(これまでに実施した取組)					
	<ul style="list-style-type: none"> ・塗装塗着効率向上による汚泥発生量削減 ・納入資材の荷姿改善による梱包材廃棄物の発生量削減 ・有価資源と産業廃棄物の分別細分化 ・不良廃棄削減 					
②計画	【目標】					
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃プラスチック類	ガラス・コンクリート・陶磁器くず	木くず
	排出量	4,667 t	4 t	119 t	5 t	21 t
	(今後実施する予定の取組)					
	<ul style="list-style-type: none"> ・上記の取組を継続する。 ・廃棄物の有価物化検討 					

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)
	<ul style="list-style-type: none"> ・社内規則を制定し、種類・処理方法に応じて廃棄物を適切に分別・保管する。 ・廃棄物置場に分別作業員、管理者を配置し、適切な分別・保管を徹底する。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)
	<ul style="list-style-type: none"> ・上記の取組を継続する。 ・新たな廃棄物の発生、法改正等の変化があれば、社内規則を見直す。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項				
①現状	【前年度（令和3年度）実績】			
	産業廃棄物の種類	—		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t		
	(これまでに実施した取組)			
—				
②計画	【目標】			
	産業廃棄物の種類	—		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0 t		
	(今後実施する予定の取組)			
—				
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項				
①現状	【前年度（令和3年度）実績】			
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃プラスチック類
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	33 t	0 t	17 t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	3,719 t	0 t	14 t
	(これまでに実施した取組)			
<ul style="list-style-type: none"> ・汚泥脱水機で汚泥を脱水処理し、減量する。 ・自社(湖西工場)焼却場で焼却処理し、減量する。 				
②計画	【目標】			
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃プラスチック類
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	0 t	0 t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	3,656 t	0 t	0 t
	(今後実施する予定の取組)			
汚泥含水率の低減を図る。				

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（令和3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t	
	(これまでに実施した取組) 埋立廃棄物ゼロレベル化(埋立量を1990年度比0.5%未満とする。)		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0 t	
	(今後実施する予定の取組) 埋立廃棄物ゼロレベル化の継続		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

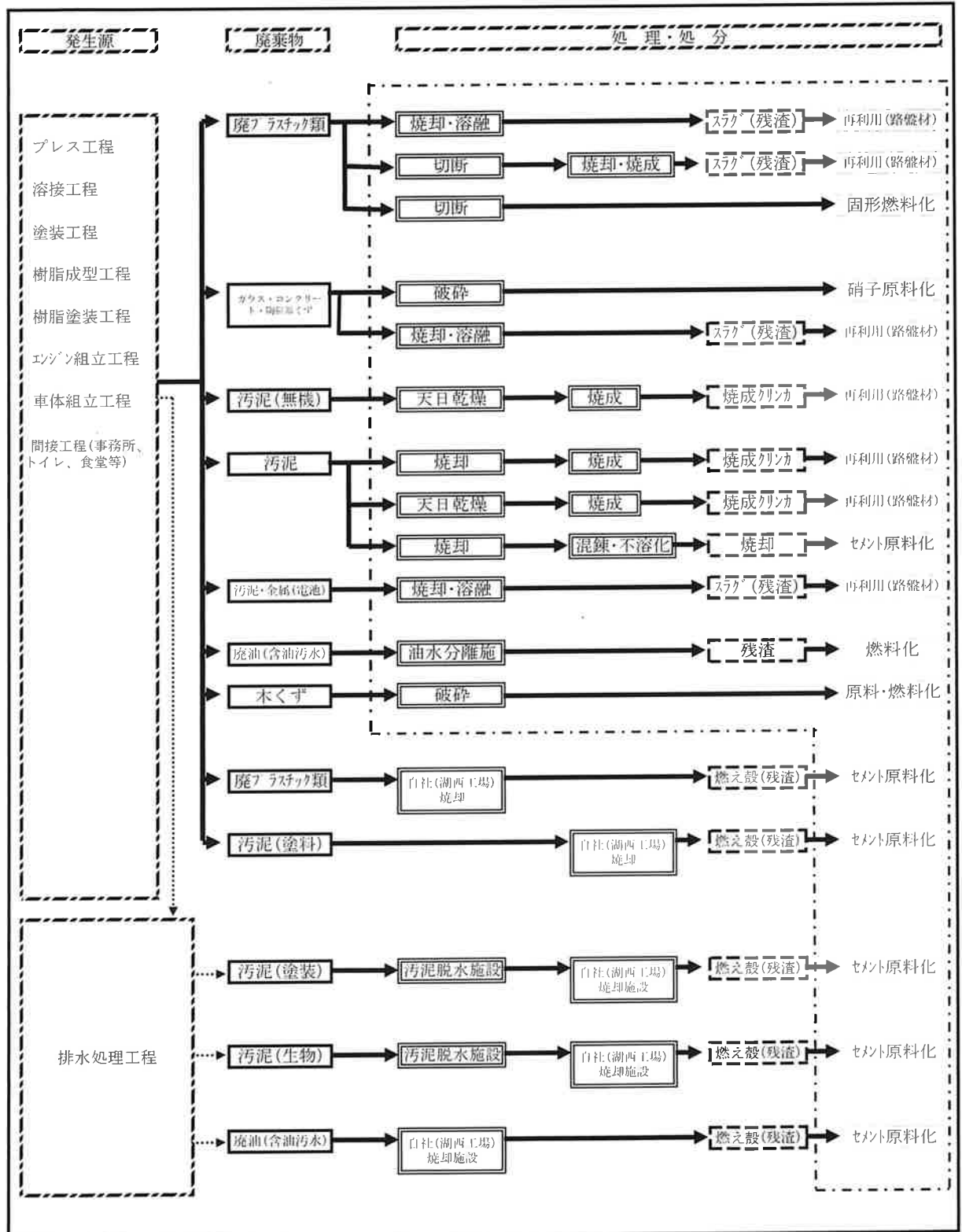
①現状	【前年度（令和3年度）実績】					
	産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃プラスチック類	ガラス・コンクリート・陶磁器くず	木くず
	全処理委託量	994 t	4 t	106 t	5 t	21 t
	優良認定処理業者への処理委託量	994 t	4 t	106 t	5 t	21 t
	再生利用業者への処理委託量	994 t	4 t	106 t	5 t	21 t
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t
	(これまでに実施した取組) ・優良認定処理業者、再生利用業者、再生処理ルートの確保を図る。 ・自社(湖西工場)の焼却場で発生する燃え殻等をセメント原料等として利用。					

		【目標】					
		産業廃棄物の種類	汚泥	廃油	廃プラスチック類	ガラス・コンクリート・陶磁器くず	木くず
②計画	全処理委託量	1,010 t	4 t	119 t	5 t	21 t	
	優良認定処理業者への処理委託量	1,010 t	4 t	119 t	5 t	21 t	
	再生利用業者への処理委託量	1,010 t	4 t	119 t	5 t	21 t	
	認定熱回収業者への処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	0 t	0 t	0 t	0 t	0 t	
	(今後実施する予定の取組) ・有価資源と産業廃棄物の分別細分化の徹底 ・廃棄物の有価物化検討						
※事務処理欄							

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、
- 5 認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

磐田工場 産業廃棄物の一連の処理の工程



《凡例》 → 廃棄物処理の流れ
 排水の流れ

--- 委託処理部分の範囲